

ものづくり・IT 融合化推進技術の研究開発

MZ Platform バイナリデータコンバータ  
操作説明書

*= Binary Data Converter Manual =*

MZ Platform 3.5

=目次=

1. 概要 .....	3
2. 動作環境 .....	3
3. 使用方法 .....	3
4. 制限事項 .....	5
付録 Java バイナリデータ（シリアライズデータ）の互換性について .....	5

## 1. 概要

MZ Platform は Java 実行環境 (JRE) で動作しています。そのため、使用する Java のバージョンが異なると、バイナリ形式 (拡張子 ".apl"、".cmp"、".mzas"、".mzcs") で保存したアプリケーションや複合コンポーネントのデータをロードできなくなる場合があります<sup>1</sup>。バイナリデータコンバータは、バイナリ形式のアプリケーション/複合コンポーネントのデータを、別のバージョンの Java のバイナリデータへ変換するツールです。

MZ Platform 各バージョンの Java 実行環境は、標準では以下の通りとなります。

表 1 MZ Platform の標準の Java 実行環境 (JRE)

MZ Platform のバージョン	Java 実行環境 (JRE) のバージョン
2.0 以前	1.4.2_03
2.1	1.6.0_05
2.2, 2.3	1.6.0_10
2.4	1.6.0_17
2.5	1.6.0_19
2.6	1.6.0_22
2.7	1.6.0_25
2.8	1.6.0_29
2.9	1.6.0_32
2.10	1.6.0_37
3.0	1.7.0_25
3.1	1.7.0_45
3.2	1.7.0_65
3.3	1.7.0_72
3.4	1.8.0_60
3.5	1.8.0_112

## 2. 動作環境

MZ Platform Ver.2.3 以降をインストール済みであることが必要です。Java 実行環境を含め、すべてをインストールしてください。

## 3. 使用方法

Windows のスタートメニューから、「バイナリデータコンバータ」を起動します。

[スタート] - [プログラム] または [すべてのプログラム] - [MZ Platform 3.5] - [バイナリデータコンバータ]

バイナリデータコンバータのウィンドウが表示されます (図 1)。

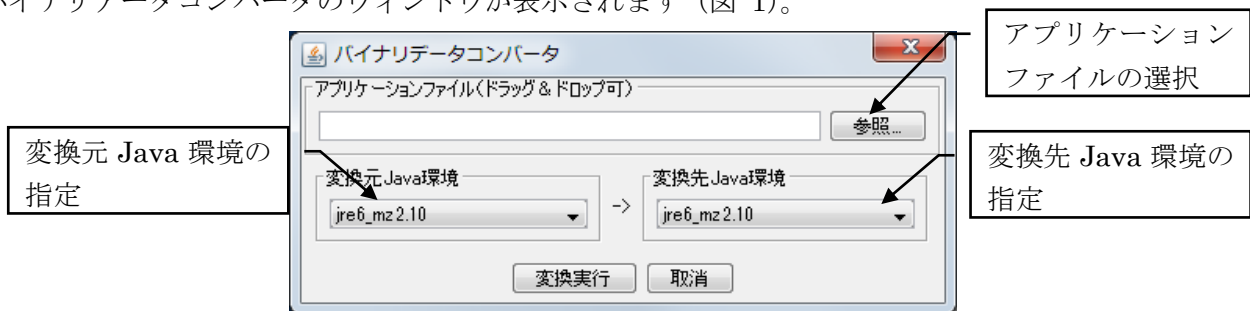


図 1 バイナリデータコンバータ起動ウィンドウ

<sup>1</sup> XML 形式 (拡張子 ".xml"、".mzax"、".mzcx") のデータは、Java のバージョンが異なってもロードできます。

[参照...]ボタンをクリックし、変換するアプリケーションあるいは複合コンポーネントのファイルを選択します。ファイルのドラッグ&ドロップでも構いません。変換元および変換先の Java 環境を指定し、[変換実行]ボタンをクリックすると変換処理が行われ、変換されたファイルが新しく生成されます。元のファイルは変更されません。

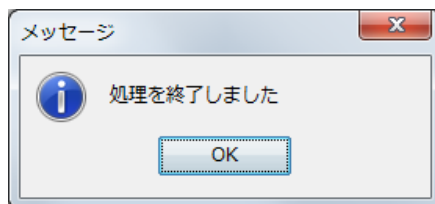


図 2 変換処理終了メッセージ

変換処理が完了したら「処理を終了しました」というメッセージが表示されます (図 2)。ファイルサイズにもよりますが、変換には数分かかることもあります。変換されたファイル名は、<変換前のファイル名>\_conv.<拡張子>となります。例えば、元のファイル名が”sample.apl”の場合には、”sample\_conv.apl”というファイルが生成されます。

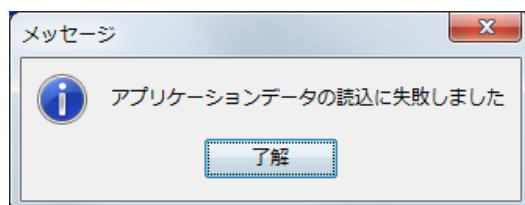


図 3 アプリケーションデータの読込失敗メッセージ

途中で「アプリケーションデータの読込に失敗しました」というメッセージが表示された場合には (図 3)、変換元の Java 環境のバージョンに誤りがないか、ご確認ください。Java 環境のバージョンは、変換元のファイルを MZ Platform で実際にロードして見ることにより確認できます。”アプリケーションビルダー (コンソール)”を実行すると図 4 のようなコンソール画面が表示され、Java 環境情報が示されます。



図 4 アプリケーションビルダーコンソール画面

変換元のファイルが起動したアプリケーションビルダーでロードできれば、この Java 環境が変換元のバージョンとなります。Java 環境の変更方法につきましては、インストールガイドの「4. Java 環境の変更」ならびに「5. 動作環境設定」をご覧ください。

#### 4. 制限事項

- このツールは MZ Platform で作成されたアプリケーションデータおよび複合コンポーネントデータを変換するものであり、一般の Java バイナリデータの変換を行うものではありません。
- 表 1 に示した Java 環境以外で作成されたデータからの変換、あるいは、表 1 に示した Java 環境以外のデータへの変換を行う場合には、それに該当するバージョンの Java 環境を別途インストールし、動作環境を必要に応じて設定しなくてはならない場合があります。

#### 付録 Java バイナリデータ（シリアライズデータ）の互換性について

以下は、バイナリデータの互換性に基づいて Java 実行環境のバージョンを分類し、それぞれ番号付けしたものです。番号の異なるバージョン間では、ファイル保存したバイナリデータに非互換が存在することが確認されています（2016年10月19日現在）。

- (1) 1.4.2 (j2re1.4.2)～1.4.2\_02 (j2re1.4.2\_02)
- (2) 1.4.2\_03 (j2re1.4.2\_03)～1.4.2\_10 (j2re1.4.2\_10)
- (3) 1.4.2\_11 (j2re1.4.2\_11)～1.4.2\_19 (j2re1.4.2\_19)
- (4) 1.5.0 (jre1.5.0)～1.5.0\_05 (jre1.5.0\_05)
- (5) 1.5.0\_06 (jre1.5.0\_06)～1.5.0\_22 (jre1.5.0\_22)
- (6) 1.6.0 (jre6)～1.6.0\_01 (jre6u1)
- (7) 1.6.0\_02 (jre6u2)～1.6.0\_25 (jre6u25)
- (8) 1.6.0\_26 (jre6u26)～1.6.0\_34 (jre6u34)
- (9) 1.6.0\_35 (jre6u35)～1.6.0\_37 (jre6u37)
- (10) 1.6.0\_38 (jre6u38)～1.6.0\_45 (jre6u45)
- (11) 1.7.0 (jre7)～1.7.0\_03 (jre7u3)
- (12) 1.7.0\_04 (jre7u4)～1.7.0\_09 (jre7u9)
- (13) 1.7.0\_10 (jre7u10)～1.7.0\_25 (jre7u25)
- (14) 1.7.0\_40 (jre7u40)～1.7.0\_71 (jre7u71)
- (15) 1.7.0\_72 (jre7u72)～1.7.0\_80 (jre7u80)
- (16) 1.8.0 (jre8)～1.8.0\_11 (jre8u11)
- (17) 1.8.0\_20 (jre8u20)～1.8.0\_25 (jre8u25)
- (18) 1.8.0\_31 (jre8u31)～1.8.0\_112 (jre8u112)